



てくれたりします」(谷田部君)。日本語が少し苦手なので英語の先生に勉強方法を尋ねたのですが親身に教えてくれました(田木君)。また苦科目へのフォローはしっかりと行い、追試などは理解できるまでとことん付き合う。

また部活動の加入率も高く、自己を律し、文武両道を貫く生徒は多い。その姿勢は国公立・早慶上智をはじめ、毎年数々の難関校へと進学していく実績に結びついている。当然楽な道ではない。谷田部君は経営学部を志望し将来は開発途上国での仕事を、田木君は国立医学部へ進学したいという。しかし彼らの表情に悲壮感は微塵も無い。嬉々として今の楽しさを、将来の夢を語る。それが自分の選んだ道だと納得しているからだ。易きに流れず、本当の意味で生徒の意思を尊重すること、それこそがすべての原動力というわけだ。

鎌倉の教育は「自由の教育」。そしてそれは、今を輝かせ未来をひたむきに追い求める、まさに真正面の教育だ。

建長寺の境内に隣接して建つ鎌倉学園。開山以来の歴史を伝える寺院建築に調和した、力強く荘厳な雰囲気をもたらした校舎が、参拝客の目を奪う。その恵まれた環境を活かした独自の活動は多い。インドネシアのスラバヤに8年間在住していた谷田部海君(高3)は、同寺での座禅を印象深い行事に挙げる。「やっぱり座禅はすごい。自分の心が静かになるので好きですね。もつとやってもいいくらい」。他にも中1での宿泊研修、開山忌での創建者・蘭溪道隆の法要、裏山の開墾など、建長寺ゆかりの行事が穏やかで強い心をはぐくんでいる。また、広大な敷地の奥にはテニスコートやグラウンド、セミナーハウスなどが設けられ、そこに至る坂道を駆け抜ける鎌倉生の姿も伝統として受け継がれている。

歴史情緒を全身に浴びる学びの中でも尊重されるのが自由の精神だ。「鎌倉の魅力は自由なところ。形にはまらない個性を主張でき、自分を磨くことができず。毎日楽しくてしょうがないです」(谷田部君)。またアメリカ南東部サウスカロライナ州に6年半在住していた田木浩大君(高2)も「とても楽しいです。周りの友達もキャラクターがそれぞれ違って、それを受け入れる雰囲気があります」と語り、部活動はもとより、多趣味な生徒が多いという。田木君自身、趣味でギターを練習する一方、高校から始めたアメフト部ではレギュラーの座を勝ち取っている。

こうした高いレベルでの自由が成立する背景にあるのは、生徒を一人前のものとして扱う教育方針、そしてそれに応え



★高 鎌倉学園中学校・高等学校

自由という王道

『礼儀廉恥』の校訓のもと『文武両道』を追い求める

建長寺を前身とする鎌倉学園。周囲は鎌倉五山をはじめ、北鎌倉の歴史情緒溢れる町並み、自然豊かで静寂な境内と、自己研鑽に恵まれた環境が整う。『自主自律』の伸びやかな校風の下、生徒たちは今しかできないことに力強く挑んでいる。

る、彼らに宿る『自主自律』の禅の精神だ。武士により開かれた古都鎌倉。その歴史を重んじる風土と、四季の移ろいを感じる自然豊かな環境だからこそ、日々の学校生活の中で自ら悟り、高めることに喜びを見いだせるのだ。

勉強においても同様だ。生徒が自信を持ち、目標にチャレンジすることを第一に考えた、高い意識を持った進学指導が行われている。自分から行かないと何も起きない。ですがわからないところを聞きに行くと丁寧に教えてくれたり、生徒それぞれに合ったお勧めの教材を紹介し

